

聞十方

教区全体に声が届きますように

第5号

発行日 2019年11月1日
 発行者 山陽教区教化委員長
 中根 慶滋
 発行所 〒670-0044
 姫路市地内町1番地
 Tel 079-292-3690
 Fax 079-292-1747
 E-mail
sanyo@higashihonganji.or.jp

「南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう」

「創造と回復
ー温もりのあるお寺とともに！ー」

「その他の団体」「ブロック制」の紹介

山陽教区内には、教区教化委員会の他に、教区が助成している各種団体がありますが、教区が助成をしていない自主団体もあります。

「八葉会（はちようかい）」、「鸞聲会（らんじようかい）」、「雅翔会（がしようかい）」、「若葉会」、「真宗カウンセリング研究会」、「赤穂別院同朋の集い」、「山陽青草びとの会」などです。

また、教区内には複数の組で構成されたブロックがあり、A～Fまでのブロックに分かれています。

今回は、それらについてお伝えしたいと思います。



船場本徳寺報恩講



船場本徳寺御修復奉告法要

「八葉会」はちようかい

会長

栗栖 寂人

八葉会は教区内において真宗大谷派の儀式・声明作法を学べる場が必要であるとして、約四十年前に結成された。

以来、姫路船場別院の法要を支え続け、現在も別院の報恩講、彼岸会、永代経総経の法要の出仕加勢を始めとし、その別院法要の勤行、一般寺院での法要、日常における勤行、また稟承餘艸（ほんじょうよそう）などの相伝教学の学びを含めた儀式作法の研鑽に努めております。

昨今、儀式の形骸化という表現で批判される方もお見受けされま
 すが、形があることにより伝えられてきた念仏の教えがあり、形に
 より大切なことを認識するということでもあるのかと思っています。
 声明が好きとか嫌いというような個人の関心の枠を越えて、儀式

と教学が一体となり、形にまでなつて伝えられてきた法灯をしつかり確かめ、伝えていくことを大切に活動をしています。

多 一
く 人
の だ
方 も
と
一
緒 に
学 ぶ
合
い
た
い
と
思
っ
て
い
ま
す
。 い
つ
で
も
お
待
ち
し
て
お
り
ま
す
。

役員

尚淨寂廣俊順順真
人慶一
山村栖谷塚崎藤谷
山木栗本大黒後藤
役問長長計外務
談會
相顧会副副会涉事

「鸞聲公」

らんじょうかい

会長

高橋

仁誓

たかはし じんせい



鸞聲会は広島県内の若手僧侶で構成され、一般寺院における声明儀式作法・莊嚴作法・装束作法・雅楽部による法要楽などの研鑽をする会として平成元年に発足しました。

現在の会員数は正会員十六名・賛助会員十五名で年十回の例会を行い、大谷派の声明儀式の基礎的な研鑽を心に、日常の法務に関わる学びや模擬法要などの実践を通して研鑽しています。

誓 乗道
仁寛 大正俊
員 橋尾 川幡
役 高瀬 寺廣
長 長計局
会 会務
会 副会務
副 副会務



主として広島別院に於ける報恩講や非核非戦法会、春秋彼岸会などの外陣や雅楽の加勢、併せて県内寺院の御遠忌法要や諸法要、寺院葬儀や仏前結婚式などへの加勢依頼を頂き、日頃の研鑽の成果を発揮する場を頂いています。また最近では、お寺に足を運んで頂くきっかけになるよう、法座へ出張し雅楽のコンサートなども行っています。

さらに、一昨年前よりは会員相互の聖教学習会を展開し、輪読・攻究を通し聖教に学ぶ事と併せて、広島別院の例月の定例法話の勤行・法話の担当をさせて頂き、法話の実践の場でお育て頂いています。

その他に、年に一度本山の両度の御命日などの法要への一般出仕による本廟崇敬の実践や、仏華の公開講習会などの活動を通して会員相互の親睦を深めながら、それぞれの組やお寺の現場での儀式執行の行儀や教化活動の拡充を願っています。



「雅翔会」

がしやうかい

会長

廣岡

祐介

ひろおか ゆうすけ

役員
介城 史史
祐法 教和
岡川 本松
廣西 松赤
長 長計局
会 会務
会 副会務
副 副会務

雅翔会は、大谷派の諸法要で演奏される雅楽を学ぶ団体です。二〇一〇年に結成され、現在会員は、教区内僧侶十六名です。毎月二回姫路別院を会場に稽古を重ねています。

主な活動としては、姫路別院法要附楽、末寺法要附楽、

仏前結婚式、葬儀等での演奏です。

特に、法要附楽においては、僧侶の動作に合わせた演奏や、声明の声に合わせて同じ音階を奏する附物等、法要を熟知することが求められます。

昨年は、教区准堂衆会・八葉会と合同で講習会を開催し、日々演奏技術の向上に努めています。



また法要以外に、寺院や音楽ホールでの演奏も行い、日本の伝統音楽であり、浄土の世界を表現する「雅楽」を紹介する活動もしています。

随時会員募集中です。興味のある方は、是非一度見学にお越し下さい。



「若葉会」

世話人

安積 孝枝 あづみ たかえ

「真宗カウンセリング研究会」

事務 南枝 なんし

尚美 なおみ

若葉会について皆さんはどのような印象を持たれていますか。私自身はお寺の奥さんたちが集まり、敷居の高いお話を聞く会だと受け止めていました。しかし若葉会は「私と同じお寺にご縁をいただき、皆さんと一緒に真宗の教えを聞いていく仲間が集まっている会」と年間の活動を通して気づくことができました。

若葉会の活動では、十一月の親鸞聖人の報恩講や会の方針を決める総会を開くことは勿論のこと、先生をお招きして、声明の稽古や、真宗の教えを学ぶ学習会を開いています。前回は、御文の拝読方法

について学びました。

また、食事を開いてお預かりしているお寺の状況や他愛ない話題とともに時間を過ごしています。

このような様々な活動を、とても意義深く感じています。

最後になりますが、これからは皆さんと一緒に親鸞聖人の教えを聞いていきたいと考えております。

お世話役

来法寺 安積 孝枝
教岸寺 黒川 悦子
圓徳寺 鶴岡 理子

二〇〇五年に本山の青少年センターから、「私たち僧侶は人々の苦悩に応えているのか？」という問いのもと、講座開催の要請を受け、梶原敬一先生（姫路医療センター小児科医師・僧侶）が各種講師を招いて計十回の講座を開いてくださいました。真宗カウンセリング研究会は、そのことをきっかけとして翌年から発足し、九十三年を迎えています。

現在、一般の方約二十名を含め、他教区他宗派などの僧侶を合わせて約七十名の方々に案内状を送付しています。隔月の学習会には、約二十名の参加があります。

また、できるだけ年一回の一泊研修会を開いて、講義やロールプレイや座談の時間をたっぷり取り、学んでいます。

今の隔月の学習会のテーマは、「唯識とカウンセリング」です。世親菩薩造の『唯識三十頌』を学んでいます。そこには、私たちの意識はたくさん層によって形作られ、その存在は、歴史や社会からの影響を受けて成り立っていると記されています。そういう自己を発見した時に、個人に起こっている問題とそこにとどめておけず、人間の課題として見ていく力となつてゆくのだと教えてられています。

カウンセリングの中で、人間の苦悩から発せられる声は、真に何が願われている声なのかを互いに聞き取ることができるとかどうかわ。それが真宗カウンセリングと呼べるものだといただきながら、学びを進めています。

気軽にコーヒーなどを飲みに来て、語り合える場所を設けることが出来たらと思っています。



例会のようす



「赤穂別院同朋の集い」

赤穂別院輪番

清水 誠朗 しみず せいろう



赤穂別院 妙慶寺



赤穂別院内陣

赤穂別院妙慶寺では、毎月一回「赤穂別院妙慶寺同朋の集い」を行っています。

これは、赤穂別院妙慶寺元輪番の内藤雅文氏の代から、赤穂組内の寺族・ご門徒を対象として、一つには教化事業の一環として、また一つには赤穂別院妙慶寺の活性化を目的として、平成二十一年六月から始められたもので、今年はいよいよ十年目の節目の年にあたります。

その間、親鸞聖人の『三帖和讃』、また『正信念仏偈』を読んでこられました。それを現輪番が引き継いでいまして、現在、皆さんで『正信偈』を唱和したあと、親鸞聖人の『教行信証』を「総序」から読んでいくところであり、心の通う温かな聞法場の場を心がけています。

赤穂別院妙慶寺

は、JR播州赤穂駅から南へほど近く、徒歩八分の赤穂市街地の真ん中にご 있습니다。多くの皆様のご参加を願っているところであり、春の報恩講には岡山県からのお参りもご 있습니다。今後、更なる御同朋・御同行のご参加を賜ればありがたいと思っています。

＜同朋の集い＞

期日 毎月第一水曜日 午後二時～午後四時

会所 赤穂別院妙慶寺



「同朋の集い」のようす

「山陽青草びとの会」

講世話人

村上 真 むらかみ まこと

眞久明 眞典隆
役員 上田 武海
村 武海

事務局
世話人
講事

そもそも、「青草びとの会」という名称は、京都にあります大谷専修学院の卒業生による同窓生学習会の名前です。その、地方版として、山陽教区でも会を持つのではないかと、今から二十数年前に始めました。

活動は、二ヶ月に一度程度の開催で、内容は、大谷専修学院元院長の竹中智秀先生の講義録の輪読会をしてあります。

読よりも、それぞれのおしゃべりで終わってしまう日の方が多いくらいです。

以前は、スクーリングといつて、年に一度、専修学院の先生にお越しいただいて、研修会を開催していたこともありましたが、近年では、輪読会のほかに、時には話題の映画の鑑賞会をしたり、講師に来て頂いて、公開講座を開いたりしております。

公開講座になりますと、大勢の方も来られますが、例会は十名以下の数しかありません。しかし、会がはじまりまして、年数がたつていますが、いまだに誰も参加者がなかったことはありません。会のあと、なるべく食事を待つようにしておりますので、初めての方も、専修学院の卒業生であるなしに関わらず、ご参加頂けたらありがたいと、みなさんのお越しをお待ちしております。



「教区内のブロック制について」

山陽教区は、全十五カ組をA～Fまでのブロックに分けて共同教化のひとつの形としています。ブロック制は、各地域で同朋の会の結成充実を願う、組の垣根を越えて真宗門徒を結ぶ共同教化の形です。

各ブロックの内訳は、

- ・ A ブロック 【神戸組・第5組・第6組】
- ・ B ブロック 【第3組・第4組・第7組】
- ・ C ブロック 【赤穂組・第1組・第2組】
- ・ D ブロック 【美作組】
- ・ E ブロック 【備中組・備後組】
- ・ F ブロック 【芸備組・安芸北組・安芸南組】

このように六つのブロックから構成されており、組の垣根を越えて各ブロックで同朋の会を共同運営していくことが願いとしてありました。現在このブロックに基づいて毎年行われている教化事業は、備中組と備後組のEブロック同朋の会研修会と芸備組・安芸北組・安芸南組のFブロック同朋の会研修会です。他には、三年に一度開催の教区女性同朋の集い、毎年行われている山陽教区真宗同朋の会推進員連絡協議会（以下…山推協）主催の一泊研修会、そして、教区坊守会一泊研修会がブロックごとに研修会の担当を回しています。

「山陽教区推進員連絡協議会とブロック」

前述のとおり山推協は毎年一泊研修会を開催しています。その際の担当組としてブロック制を採用し、担当のブロック内で受付、会計、総合司会・座談司会者などのスタッフを取り決め、協力し合い事業を完遂しています。今年度は第三十九回目を迎え、その歴史の中で当初の頃よりブロック制を基に研修会の運営を組を越えて共同で行っていたことがうかがえます。

「女性同朋の集いとブロック」

女性同朋の集いは各組への女性同朋会の結成促進、奨励を目的に女性自身の手でつくりあげる同朋の集いとして行われています。

一九八九年より始まったこの集いは毎年行われてきましたが、二〇〇九年からは三年に一度開催を目安に開かれています。

前回の第二三回二〇一八年度女性同朋の集いはCブロック（第一組・第二組・赤穂組）が担当となり、講師選定から当日開催に至るまでCブロックと教区教化委員会が組織された実行委員会が主体となって開催されました。



第23回山陽教区 女性同朋の集い
講師 佐賀枝夏文氏



第39回山推協一泊研修会
講師 戸次公正氏

Dブロック

あしかが ひろし
足利 博司



睦会を行って来ました。

二〇一八年度は、備中組が担当というところで、邑久光明園、長島愛生園にて研修会交流会を行いました。今回は、育成員門徒会員に限らず、弘く備中・美作のご門徒皆様にお声かけして、両組あわせて約三十六名の参加がありました。

今回の光明園・愛生園の交流会をご縁に育成員門徒会員の皆様がもつともつと社会問題に関心を持って、関わっていったら良いと思います。又、合同研修会も先達からの意志を受け継ぎ、今後も続けていければと思います。

来年は、美作組が担当です。よい研修会が出来ればと思います。



Eブロック

かつま やすし
勝間 靖

Eブロックは備後組と備中組で構成され、東西に二〇km南北に二二〇kmと県域や都市圏域を越えた広い地域です。現在、Eブロックには三十七カ寺の寺院があり、寺族門徒が共に学ぶ場として推進員が中心となり『Eブロック同朋の会研修会』を開催しています。十月には備後組担当で、六月には備中組担当で年二回開催されており、今では七十五回目を数えるに至りました。一昨年は教区の重点課題である「非核非戦を通して、ヒバクのない世界を願う」を受けて、長田浩昭氏（京都教区法傳寺住職）をお招きして原発問題と真宗についての講演をして頂き、現代における社会問題と我々念仏相続の同朋の在り方について共に認識を深めさせて頂きました。また、隔年で合同育成員研修会を開催しており、一昨年は福島第一原発事故での被害状況、今なお苦しんでいる福島の実情を現地学習しました。今回はアイヌ問題を学習することが決まっています。

このように人類根源の願いに応えるべく自らの願いの自覚に立って、地域社会の諸問題から、どのようにすれば浄土の願生者たる生を共に歩めるのかを模索しながら場づくりをしたいと思っています。



Fブロック

みなみ まさずみ
南 正純

広島県西部の安芸南組、安芸北組、芸備組で構成するFブロックは三組が持ち回りで主管する「同朋大会」を年一回開催しています。ここ三年の大会の講演を抄録しました。

二〇一七年五月（安芸南組主管）講師 精神科医 香山 リカ氏「どん底に突き落とす悲しみ、悩み、苦しみは人間の力で全て解決できません。しかしそんな時に人は人間を超えた力にまかせることができるのです。お寺で手をあわせると心が落着くのも自分を超えた大きな力にゆだねることかもしれません。」

二〇一八年六月（安芸北組主管）講師 海法龍氏「善か悪かだけでとらえられない出来事に出遭いながら生きている私たちの依りどころになるのが南無阿弥陀仏の教えです。」

二〇一九年五月（芸備組主管）講師 伊藤元氏「何が起るかわからない雑会を生きる私たち。起きたことをどう受け止めるか

がその人の人生。起きたことに向き合う時に仏法を聞いてきたかどうかが問われるのです。」



「教区帰敬式実践運動について」



帰敬式実践運動推進計画を通して、全教化事業が持つ願いが改めて確かめられることを願うものである」と謳いながらもその後なかなか運動として実を挙げられませんでした。

ますます、人口減少・過疎化によって寺院そのものの存続が危ぶまれ、さらには現代の人間関係の希薄さ冷たさが叫ばれる中、「人の誕生」「場の創造」の願いのもと、いよいよ聞法の間である「同朋の会」の結成・充実が望まれています。それは、お念仏を通じて、目の前の一人を立場や違いを超えて尊重しあえる場所として。そして、自分自身がその目の前に生かされていることの事実に出会い・気づく場所として。そこに一人の念仏者が誕生し、念仏の場が開かれ、まさに「前に生まれ

ん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え」『教行信証』

（『真宗聖典』四〇一頁）と聖

人が仰られたように、綿々と受け継がれていく。そのサンガの一員たる一人ひとりが仏弟子の名告りである法名をお受けいただき、自ら念仏者として誓いをたて、人生を歩ん

二〇〇六年度に山陽教区で策定さ

れた帰敬式実践運動推進計画では「山陽教区におけるこの取り組みは七百五十回御遠忌をその契機とするものであるが、御遠忌までの有的な運動ではない。いうまでもなく御遠忌後も継続していく取り組みと位置付けるものであり、この山陽教区



でいただくことを願いとして、その取り組みがなされていますが、ここ山陽教区内において帰敬式を受式されている方は多くありません。

一因としては、帰敬式は本山でのみの受式に限られているという思いがあったからなのかもしれません。さらには、帰敬式を希望されるご門徒がいらっしゃつてもその執行手順が明確にわからないという寺院もあったのかもしれない。

この現状を打開すべく、まずは、教化本部委員及び教化委員の寺院において帰敬式を執行し、その事例を教区内に紹介する等、教区内寺院における帰敬式執行のバックアップ体制を整えるべく、帰敬式執行講座を実施致します。具体的には本部委員及び担当部門の委員が実施寺院へ赴き、帰敬式に立ち会い、学びを深め、将来的には各寺院での帰敬式執行奨励へとつなげて参ります。

今年度は、①第一組西寶寺、②第二組龍寶寺、③第二組正行寺、④備後組明圓寺の四カ寺を対象に行います。西寶寺では、八月九日に（写真）九月二十日には龍寶寺にて執行致しました。（正行寺・明圓寺は時期未定）

また、帰敬式を受式されたご門徒には、今年度より開催致します「山陽教区全門徒大会」へご参加いただきましたたく、ご案内をいたします。

仏弟子として生きる名告りをされた受式者が、その聞法生活を通しての問いを、サンガの中で見つめ、確認しあう道場として、別院の報恩講を縁に開催するものであり、受式者のみならず、推進員及び全てのご門徒の方々に呼びかけをさせていただきます。

二〇一九年度は姫路船場別院本徳寺で実施致しますので有縁の方々お誘いあわせのうえ、是非ともご参拝ください。（駐在 寺本）



全門徒大会のお知らせ

山陽教区全門徒大会

日時

二〇一九年十一月十六日
十時～十二時

会場

姫路船場別院本徳寺本堂

参加費

無料

事前申込

不要

対象

どなたでも
ご参加いただけます

講師

藤井 晃氏

(山陽教区実行部本部長・主任職・教化推進本部長)

議題

わたしにとって、
「真宗門徒」とは？

※「昼食 小豆がゆ
(閉会後に)案内します」

日程詳細

10:00 受付
10:30 開会
真宗宗歌
勤行 正信偈草四句目下(同朋奉讃)
念仏・和讃「弥陀大悲の誓願の」
回向 願以此功德
11:00 法話 藤井 晃氏
11:45 感話
12:00 閉会
※閉会后、簡単な昼食を用意しております。
13:30 姫路船場別院本徳寺「報恩講」初建夜

教区全門徒大会開催趣旨



教化推進本部長 藤井 晃

人は誰も、今を生きるこの一回限りの生を張り合いを持って生き、この生全体を歓喜で終えていきたいと願う者であります。その願いに込められているのが仏道であり念仏の教えであります。その証として「仏弟子」を自ら名告るのです。

真宗同朋会運動の中で、多くの仏弟子が誕生いたしました。仏弟子を生きる指標として一日一日に帰依三宝を実践する者となる。私は、如来の念仏

申せという呼び声に促され、煩惱具足のこの身のままで、浄土に目覚め、浄土を本として、この娑婆を肅々と生きる。

宗祖

は、仏弟子に三通りありと。教行信証の信巻に『「真の仏弟子」と言うは、「真」の言は偽に對し、仮に對するなり。「弟子」とは釈迦・諸仏の弟子なり』と。一つは仮の仏弟子・まるで燃え尽き症候群のようなそのときだけの依り処、二つは偽の仏弟子・人間の欲望に沿った依り処、三つに真の仏弟子・我が身がどういふ状況にあるうともこの人生を一貫する依り処。

真の

仏弟子の確かめが、信心獲得の道であり、「共に念仏申さるるべし」との親鸞聖人の願いに適うことであります。聞法者の姿は、いつも我が身を振り返り足元を見定め、生きる様々な問題を我が課題とし問い続けることでありましょう。

姫路

別院・船場御坊の報恩講の始めに、全門徒

大会を開催し、改めて仏弟子として法名を頂いた意味を確かめ合いました。

編集後記

一年ほど前から、美味しいコーヒーが飲みたいと思いたつ心がおこり、形から入るタイプの私は、ドリッポコーヒーの道具を買い揃えた。お湯の温度、淹れ方ひとつで味が変わってくるが、行き着くところは、素材である豆である。産地、煎り方によっても味は様々で好みにもよるが、その豆の最高のパフォーマンスを引き出すには、鮮度が重要である。粉の場合はすぐに使わないと酸化するので、できるなら豆で保存することが好ましい。そういうことで鮮度に並び重要なのが、豆を挽くという行程である。如何に粒度が均一になるかで味が断然美味しくなる。そして、そこにもうひとつ手間節(ふるい)をかけて微粉を除くことにより、よりスッキリとした味

わいになる。

教区の教化事業のほぼ全てが今年度休止になった。各部事業精査をして体制を整えるという方針である。篩にかけて必要か不必要かということなく、そもそも何の為に、そこに課題を持つて主体的に関わっているかということがこの度の事業精査かと思う。

篩にかけて落ちてくる微粉の正体は、事業そのものではなく、慣れ、怠け、自惚れなどの私の取り組む姿勢が露わになる。

真宗大谷派という大きな組織に属しながら、本山、教区の教化事業を行うのではなく、門徒さんと関わるそれぞれの現場の声から事業が展開されなければならない。

美味しいコーヒーを飲みたいという探求と同じように、常に篩にかけて取り組んでいきたいと思う。そういえば、最近は微粉まで取り除くことは面倒でしてなかったかな。(A、M)

HPのサーバー移転につき、「お気に入り」の再登録をお願いいたします。